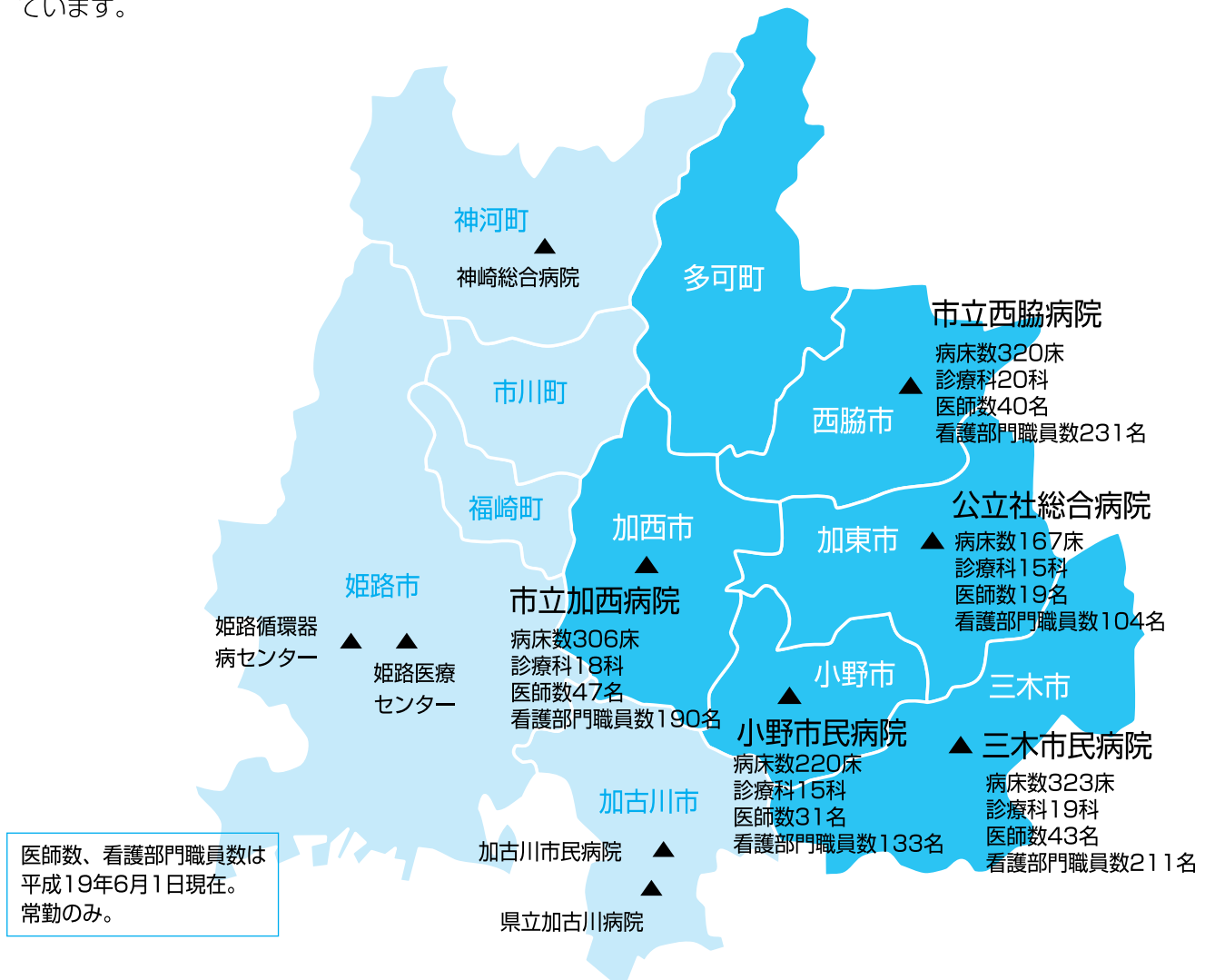


北播磨中核病院構想

〈北播磨中核病院構想とは？〉

北播磨5市1町（西脇、三木、小野、加西、加東、多可町）の自治体病院を統合し、中核を担う病院をつくる、という構想。医師不足になった神戸大が、医師を集中して派遣するために提案しています。北播磨地域の北部と南部に設置することや、中核病院以外の病院がリハビリなどを担うサテライト（衛星病院）となることなどが議論されています。



〈はじめに〉

少子高齢化の進行、医学・医療技術の進歩、さらには市民のニーズや健康への関心の高まり等の中で、医療を取り巻く環境は変化し、より質の高い効率的なサービスが求められています。

一方、国民医療費の適正化、医療制度の改革、医療供給体制の整備が進められ、病院の維持が厳しいものとなってきています。特に、勤務医不足は、地域や診療科の偏在のみならず絶対数の不足を呈し、地域における医師確保が困難になるとともに、病院医療、地域医療、救急医療に支障をきたしている状況にあります。

そのような中で、現在検討されている北播磨中核病院構想についてお知らせします。

〈提案背景と神戸大学の意図〉

- ・神戸大学は、北播磨を含め各地の病院に医師を派遣してきたが、医師不足と医師の行動変化によりこれまで通りに派遣することが困難となった。
- ・北播磨圏は、公立病院が過剰な地域であり、また、全国的な勤務医不足のあおりを受けて北播磨の公立病院の医師不足が進んでいる。勤務医が減少していくと、病院崩壊につながる。
- ・北播磨圏に病院医療を残すには、医師の研修が行える教育機能を備え医師が自ら赴任を希望する病院、地域の中核病院の性格を持つ病院を作ることである。そのような病院の構築に際して、神戸大学は大学を挙げて協力するとしている。